

〈解答〉

① (1) $25 - 2x$ (2) 95個

② (1) $\frac{7}{12}$ (2) $\frac{1}{4}$

③ (1) $a = -\frac{2}{3}$, $b = 6$ (2) $C\left(\frac{3}{2}, 5\right)$ (3) $-\frac{3}{4}$

配点 各2点 ③(1)両解 計14点

〈解説〉

① (1) 余った25個のキャンディーについて、これを参加者の x 人に2個ずつ全員に配ろうとしたら3個不足したので、キャンディーの個数について、次のような方程式が成り立つ。

$$25 - 2x = -3$$

(2) (1)でつくった方程式を解くと、

$$25 - 2x = -3$$

$$-2x = -28 \text{ より, } x = 14$$

よって、参加者の14人にキャンディーを5個ずつ配ると25個余ったことから、ケースの中に入っていたキャンディーの個数は、

$$5 \times 14 + 25 = 95 \text{ [個]}$$

であったことが求められる。

② (1) 階段を上って移動することを正の数、下って移動することを負の数で表すものとする、サイコロの目が1～6のときの移動は、それぞれ

$$\begin{matrix} \square & \rightarrow & -1, & \blacksquare & \rightarrow & +2, & \boxtimes & \rightarrow & -3, \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \blacksquare & \rightarrow & +4, & \boxtimes & \rightarrow & -5, & \boxplus & \rightarrow & +6 \end{matrix}$$

である。ゲームを終えたとき、移動した分の和が正の数になった場合に15段目よりも上に移動していることになるので、下の表に影をつけて示した21通りである。

		2回目					
		-1	2	-3	4	-5	6
1 回 目	-1	-1-1	-1+2	-1-3	-1+4	-1-5	-1+6
	2	+2-1	+2+2	+2-3	+2+4	+2-5	+2+6
	-3	-3-1	-3+2	-3-3	-3+4	-3-5	-3+6
	4	+4-1	+4+2	+4-3	+4+4	+4-5	+4+6
	-5	-5-1	-5+2	-5-3	-5+4	-5-5	-5+6
	6	+6-1	+6+2	+6-3	+6+4	+6-5	+6+6

また、サイコロを続けて2回振った場合のすべての目の出方は、

$$6 \times 6 = 36 \text{ [通り]}$$

なので、求める確率は、

$$\frac{21}{36} = \frac{7}{12}$$

である。

- (2) 階段をすべて上りきるためには、移動した分の和が+7以上になればよい。また、階段をすべて下りきるためには、移動した分の和が-8以下になればよい。よって、下の表に影をつけて示した9通りである。

		2回目					
		-1	2	-3	4	-5	6
1 回 目	-1	-1-1	-1+2	-1-3	-1+4	-1-5	-1+6
	2	+2-1	+2+2	+2-3	+2+4	+2-5	+2+6
	-3	-3-1	-3+2	-3-3	-3+4	-3-5	-3+6
	4	+4-1	+4+2	+4-3	+4+4	+4-5	+4+6
	-5	-5-1	-5+2	-5-3	-5+4	-5-5	-5+6
	6	+6-1	+6+2	+6-3	+6+4	+6-5	+6+6

以上より、求める確率は、

$$\frac{9}{36} = \frac{1}{4}$$

である。

- ③ (1) 関数㉑のグラフは点Aを通ることより、その切片は6であることがわかる。よって、

$$b = 6$$

である。また、A(0, 6), B(9, 0)の2点を通ることから、その傾きは、

$$a = \frac{0 - 6}{9 - 0} = -\frac{2}{3}$$

である。

- (2) 点Cは関数㉒のグラフと関数㉑のグラフとの交点なので、関数㉒の式 $y = 2x + 2$

を関数㉑の式 $y = -\frac{2}{3}x + 6$ に代入して、

$$2x + 2 = -\frac{2}{3}x + 6$$

$$6x + 6 = -2x + 18$$

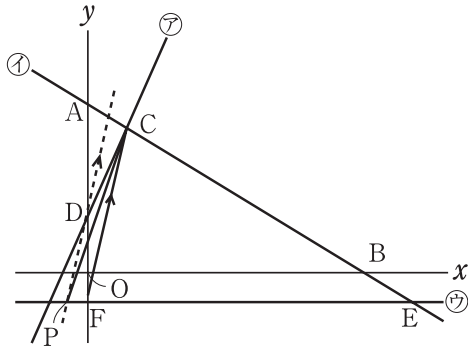
$$8x = 12 \text{ より、 } x = \frac{3}{2}$$

これを関数㉒の式に代入して、

$$y = 2 \times \frac{3}{2} + 2 = 5$$

したがって、C $\left(\frac{3}{2}, 5\right)$ である。

- (3) 関数㉒のグラフの切片より、点D(0, 2)であることがわかる。次頁の図のように、四角形CDFEの対角線CFを引くと、



面積について、

$$\text{四角形CDFE} = \triangle\text{CDF} + \triangle\text{CFE}$$

であるから、

$$\triangle\text{CDF} = \triangle\text{CPF}$$

になれば、

$$\begin{aligned} \text{四角形CDFE} &= \triangle\text{CDF} + \triangle\text{CFE} \\ &= \triangle\text{CPF} + \triangle\text{CFE} = \triangle\text{CPE} \end{aligned}$$

となる。線分CFを $\triangle\text{CDF}$ と $\triangle\text{CPF}$ の共通底辺とすると、点Pは点Dを通过对角線CFと平行な直線上にある。

点F (0, -1) だから、対角線CFの傾きは、

$$\left\{ 5 - (-1) \right\} \div \left(\frac{3}{2} - 0 \right) = 6 \div \frac{3}{2} = 4$$

なので、点Dを通过对角線CFと平行な直線の式は $y = 4x + 2$ である。この直線と直線㊵との交点のx座標は、 $y = 4x + 2$ に $y = -1$ を代入して、

$$-1 = 4x + 2 \text{ より, } x = -\frac{3}{4}$$

となる。